

平成28年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果の分析について

平成28年4月19日に中学1・2年生を対象に「佐賀県学習状況調査」、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。

関係教科及び学習・生活に関する調査結果を分析し、改善に向けた取り組み事項をお知らせします。今後、さらに生徒の学力向上を図っていききたいと考えています。

1 1年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回り、観点別では「話す・聞く」「知識・理解・技能」は県平均とほぼ変わらず、「おおむね達成」の範囲内に収まっている。一方、「書く」「読む」は「要努力」レベルにとどまり、県平均を大きく下回っている。意識調査でも「読書は好きだ」は県平均を上回るが、「話の組み立てを工夫している」「考えの理由が分かるように気をつけて書いている」「段落は話のまとまりごとに内容理解しながら読んでいる」は県平均より下回っており、論理的な構成の文章に対する苦手意識がかなり強い。	「読むこと」では、特に説明文の文章を扱う際に、段落ごとの関連や全体の論理の構成を意識しながら読ませたい。形式段落の冒頭に用いられている接続詞に着目してつながりを考える学習や、段落ごとに要約をすることで全体の流れをつかむ学習を授業の中に取り入れていく。同時に「正しく表現する」ことを意識して小感想や要旨として、自分の意見を文章にまとめてから発表するなどを行い、論理的構成の文章を読んだり書いたりすることに対する苦手意識を取り除きたい。
数学	全体の正答率は県平均をやや下回った。領域別では「図形」が、観点別では「数学的な見方・考え方」が、問題形式では「記述式」が、県平均に比べて一番落ち込んでいた。設問ごとにみると、正答率が低い問題の中に県平均より落ち込んでいるものが多い。概して、正答率が高い問題は県平均と同じ程度であるものが多く、その中には正答率が県平均よりも有意に高いものもあった。また、意識調査においては、数学の「勉強は好きだ」「授業はよくわかる」という回答は県平均を上回っているものの、数学の授業で「公式やきまりの根拠を理解するようにしている」「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」という生徒は県より少ない。	学習に対する意欲を喚起することが一番の改善策である。そのため、まず望ましい学習習慣を身につけさせることが大切であり、学習用具をきちんと準備させることや課題を確実に提出させることなどを継続的に指導していく。次に、定期テスト前に出題範囲の総復習をして、テストに向けた学習を促し、学習した成果がテストに表れることにより、達成感をもたせたい。さらに週2時間のチームティーチングの時間を活用し、個に応じた丁寧な指導を行っていききたい。また、課題を様々な角度から考え、解答を導く過程を大切にしよう指導していききたい。

2 2年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は県平均をやや下回るものの、「おおむね達成」のレベルに到達しており、観点別の「話す・聞く」「書く」に関しては「十分達成」に到達している。しかし、「知識・理解・技能」に関しては県平均を大きく下回っており、「読む」に至っては「要努力」レベルに近い結果となっている。意識調査においても、「読書は好きだ」に「当てはまる」と答えた割合は県平均をやや下回り、「話の組み立てを工夫している」「理由が分かるように気をつけて書いている」で「どちらかといえば当てはまらない」が県平均より多くなっている。	昨年度（1年時）の調査からの変化を見ると、「読む」の正答率が著しく低下している。これは感覚的に読める物語的な文章よりも、説明文などの論理的な構成の文章を学ぶ機会が増えてきたため、論理をつかみ取れないことや語彙力の不足などの理由から苦手意識が増加しつつあるためと思う。したがって、段落ごとの関連や全体の論理の構成を意識しながら読む学習、接続詞に着目してつながりを考える学習、段落ごとに要約をすることで全体の流れをつかむ学習を引き続き授業の中に取り入れ、論理的構成の文章を読んだり書いたりすることに対する苦手意識を取り除きたい。
数学	全体の正答率は、県平均を大きく下回る結果となった。領域別においても、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべてにおいて、県平均を下回った。また、到達基準の「おおむね達成」にも到達しない状況であったが、評価の「知識・理解」においては、「おおむね達成」を上回ることができた。 傾向として、無解答率がすべての領域・観点で県平均より高いことが分かった。	全体として県平均を下回っているため、授業中の理解度を高められるように、1年次の復習を取り入れながら授業を行っていく。また、週に1回の復習テストを確実に実施していく。その上で、生徒の実態に合わせた個別指導に重点を置き、それを継続していく。 評価の「技能」の向上については、問題集やプリントを用いて家庭で復習をさせ、学習内容の定着を図っていく。「見方や考え方」についても、授業の中で日常生活と関連づけた内容を取り扱ったり、根拠を明らかにして説明させたりしていききたい。

3 3年生の傾向と指導事項

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	全体の正答率は、県平均とほぼ同じで、「十分達成」に近いレベルにまで伸びている。また観点別に見ても、すべての正答率が県平均と同じかやや上回る数値が出ている。しかし、4観点の中では「書く」の正答率が他に比してやや低く、意識調査においても、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」「うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」「考えの理由が分かるように気をつけて書いている」の3項目が県に比して「当てはまる」の割合が低くなっている。	昨年度（2年時）よりもさらにどの観点でも向上が見られるが、やはり「書く」こと、特に論理的な構成の文章を書くことへの苦手意識がまだ強いと思う。高校入試への対策も含めて、日常の学習の中で160～200字程度の、テーマや構成を指定した課題作文問題に多く取り組ませることで、「書くこと」への苦手意識を払拭させ、構成を意識した文章表現を行うことができるように取り組んでいきたい。
数学	全体の正答率は、県平均をやや下回る結果となった。観点別においても、「見方・考え方」「技能」「知識・理解」のすべてにおいて、県平均をやや下回った。内容・領域別に見ると、どの領域も下回ったほか、特に「関数」について、正答率が低かった。到達基準の「おおむね達成」にも到達しない状況であった。また、記述式の問題に対する無解答率が高いという傾向も見られた。	全体として県平均をやや下回っており、まずは数学の基礎力となる「技能」の向上のために、授業においてはT.Tでの指導を行うほか、状況に応じて少人数での指導を行い、個に応じた指導を行っていく。また、問題集やプリント等を用い、過去の学習内容については、週末を中心に繰り返し復習を行うなど、学習内容の確認・定着を図っていききたい。その他、「知識・理解」や「見方・考え方」の向上のため、テスト前後には丁寧に、確認・復習の時間をとり、確実な定着を図っていききたい。